

取組事例① 「出会い」から「高齢者」まで各ライフステージに応じた支援による人口減少時代への挑戦 (標津町)

標津町では、「出会い」から「子育て」、「若者」、「高齢者」などの各ライフステージに対応した切れ目のない政策のほか、住環境整備への支援、自然災害対策などにより「移住・定住」の促進を実施し、人口減少の抑制を図っている。

関連数値目標・KPI

	基準値 (H27)	実績 (R1.12末)	目標値 (R1)	進捗率 (%)
婚活事業への参加者数	0人	351人	300人	117%
定住・移住者	0人	292人	300人	97.3%

取組の推進体制

行政のほか、産(農協、漁協、商工会)、学(小中高)、金(金融機関)、労(労働団体)、地(町内会連協)、福(社協、民児協)で構成する「総合戦略推進会議」を設置、検証の場としている。

取組事例

子育ての支援

○主な取組

- ・ 出産祝い金を5万～50万円支給。
- ・ 幼保連携型認定こども園の使用料を、6ヵ月～2歳児は国基準の1/4に軽減。
- ・ 高校生までの医療費を無料化。
- ・ 健診費用の助成などによる、妊産婦への支援を強化

○主な成果

- ・ 幼年人口(0～14歳)の減少が過去20～30人程度であったのが、10人程度に圧縮。
- ・ 青年層の移住者の増大。



幼保連携型こども園をH28に供用開始

移住・定住の支援

○主な取組

- ・ 住宅取得への助成。(移住者上乗せ)
- ・ あんしんサポートセンターの設置による高齢者の生活の支援。
- ・ 気象予報士の採用による災害に強いまちづくりの推進。

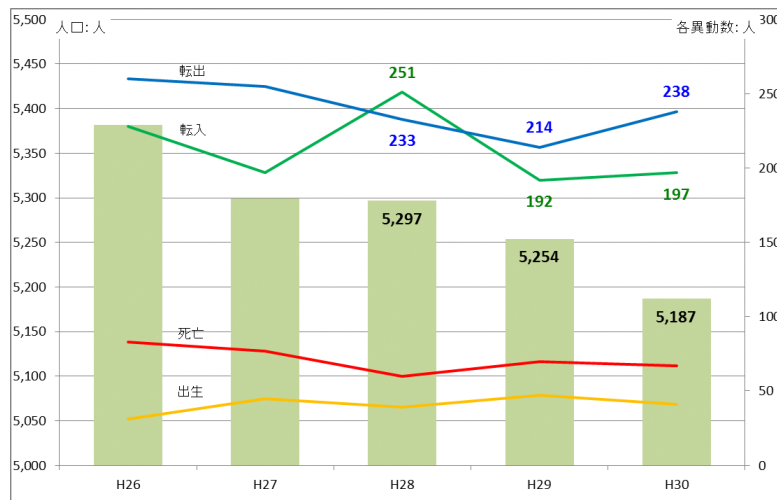
○主な成果

- ・ 過去は平均70人程度だった転出超過数の抑制。(現状30～40人)
- ・ 移住・定住者数「5年で300人」のところR1.12末で292人。



「あんしんサポートセンター」による高齢者の生活支援

社会増減の状況



転出抑制と転入増加により、
 H28には転入超過となった。
 (統計開始以来初)